

◆ 脳死子宮移植 初の出産

ブラジル・サンパウロ大のチームは、脳死の提供者（ドナー）から子宮移植した母親が出産したと、英医学誌「ランセット」に発表した。脳死ドナーからの移植で出産したのは世界初とされる。チームは2016年9月、くも膜下出血で脳死となった45歳のドナーから子宮を摘出し、生まれつき子宮がない「ロキタンスキー症候群」の32歳の女性に移植。7か月後、あらかじめ体外受精させた受精卵で妊娠、17年12月に帝王切開で出産した。

容はほぼ一致している。
【原田啓之】

子宮を脳死移植 世界初出産成功

ブラジル

脳死の提供者から子宮の移植を受けた女性が子どもを出産したと、ブラジル・サンパウロ大の研究チームが4日付の英医学誌ランセットに発表した。脳死提供者からの子宮移植例は米国などであったが、出産が報告されたのは世界初となる。

研究チームは2016年9月、くも膜下出血で脳死状態になった45歳の女性から子宮を摘出し、生まれつき子宮がないロキタンスキ1症候群の32歳の女性に移植。昨年12月に帝王切開で出産に成功した。母子ともに健康という。

【千葉紀和】

脳死女性の子宮移植し出産 ブラジル、世界初か

社会

2018/12/5 11:42

 保存  共有  印刷    その他▼

ブラジル・サンパウロ大のチームは5日までに、脳死になった女性から子宮の移植を受けた女性が女兒を出産したと、英医学誌ランセットに発表した。生存している女性からの子宮提供で子どもが生まれた例はあるが、脳死提供での出産は世界初だとしている。

チームによると、2016年9月、くも膜下出血で脳死になった45歳の女性から子宮を摘出。生まれつき子宮がない「ロキタンスキー症候群」の30代の女性に移植し、拒絶反応を抑える薬の投与を始めた。

約7カ月後、体外受精で作製した受精卵を着床させると、女性は妊娠。17年12月に女兒を帝王切開で出産し、子宮も摘出した。

チームは脳死からの子宮移植は技術的にはまだ確立していないとしつつ「生きた提供者を傷つけず、子宮が原因の不妊に悩む女性に出産の機会を与えられるのではないかと話している。

子宮移植は、日本では慶応大のチームがロキタンスキー症候群の女性を対象に、親族から提供を受ける形での臨床研究を計画している。〔共同〕